

2023 年度支部長会・各種委員会活動報告

- ・ 支部長会 14～15 頁
- ・ 将来構想・運営調整委員会 16～17 頁
- ・ 財務委員会 18～19 頁
- ・ 代議員選考委員会 20 頁
- ・ 企画・広報委員会 21 頁
- ・ 倫理委員会 22～23 頁
- ・ 利益相反委員会 24 頁
- ・ 編集委員会 25～28 頁
- ・ 認定医制度委員会 29～31 頁
- ・ 教育・研修委員会 32～34 頁
- ・ 試験委員会・ブラッシュアップ小委員会 35～36 頁
- ・ 学会賞受賞者選考委員会 37 頁
- ・ 全国集計委員会 38 頁
- ・ がん検診情報統計室設置検討小委員会 39 頁
- ・ 胃がん検診精度管理委員会 40 頁
- ・ 対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル改訂版編集委員会 41 頁
- ・ 胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会 42 頁
- ・ 新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版編集委員会 43 頁
- ・ 胃 X 線読影補助認定委員会・読影 e-ラーニング小委員会 44 頁
- ・ 大腸がん検診精度管理委員会 45 頁
- ・ 大腸 CT 検査技師認定委員会 46～47 頁
- ・ 検診従事者委員会 48 頁
- ・ 胃がん検診専門技師認定委員会 49 頁
- ・ 胃がん検診専門技師認定試験委員会 50 頁
- ・ 胃がん検診専門技師認定作問委員会 51 頁
- ・ 超音波検診委員会 52～53 頁
- ・ 腹部超音波検診判定マニュアル HP 掲載画像検討小委員会 54 頁

支部長会

担当理事：大西 洋英理事長

支部長：北海道 藤谷幹浩

東北 加藤勝章

関東甲信越 小田丈二

東海北陸 丹羽康正

近畿 伊藤高広

中国四国 井上和彦

九州 松浦隆志

委員会開催：3回（対面開催1回、web開催2回）

1. 7支部における2023年度事業報告・会計報告ならびに2024年度事業計画・予算について報告があった。
2. 支部長交代について
 - ・2023年4月1日より、次のとおり支部長が交代となった。
近畿支部 伊藤 高広（奈良県立医科大学附属病院中央放射線部/放射線診断・IVR学講座）
 - ・2023年8月1日より、次のとおり支部長が交代となった。
九州支部 平賀 聖久（佐田厚生会佐田病院放射線科）
 - ・東北支部では、加藤支部長の後任として正宗 淳（東北大学大学院医学系研究科消化器病態学分野教授）が2024年4月1日より就任することとなった。
3. 支部優秀演題賞の選考に関する内規（案）について
支部優秀演題賞の選考に関する内規（案）の選考方法について説明があった。選考委員の選定と表彰の場の設定は各支部の事情もあるので、予め支部で細則を定めて欲しいとの依頼があり、理事会で検討し、承認を得て詳細手順は本部と支部で確認しながら決めることとした。
施行は2024年度の地方会で発表された演題を対象とし、受講者は翌2025年総会時に表彰することとなった。
4. 会員情報開示依頼について
会員情報開示依頼については、個人情報の兼ね合いでいくつかの注意事項があり、本学会の「個人情報保護法第18条及び第24条に基づく個人情報及び保有個人データに関する事項」は入会時に会員が理解している内容になるが、詳細についてどのように解釈するかを企画・広報委員会で検討した。
その結果、
 - ① 学会が行う各種事業活動（各種委員会、認定制度、出版、講演会等）
→支部例会や研修会の告知は含まれる（講演会等として）
→幹事・役員を選出業務も含まれる（各種委員会として）
 - ②委員会が行う各種実態調査において、調査票の発送、連絡、確認事項

→いずれも学会員を対象としたものであり、学会員以外の方々に影響を及ぼす可能性がある目的での使用は認めない（入会の勧誘依頼など）と解釈することにした。運用する上でグレーゾーンが存在することが判明したため、これら原則を理解した上で申し込みをして欲しい、と説明があった。

5. 役員賠償保険について

役員賠償保険については、サイバー攻撃や様々な理由で訴えられたとき、学会および役員等を守るために、

- 1) サイバーセキュリティー保険
- 2) 本学会の理事及び支部長が役員賠償責任保険

に加入することが理事会で決定された。

上記2) については保険料を一部負担することで被保険者になることが必要であることを説明し、全支部長から保険料一部負担の了解が得られた。

6. 支部医師研修会の修了証発行の件

支部医師研修会の修了証書発行手順については、様々な発行形態があるようだが、既定の時間や既定のプログラムを受講することで修了書を発行するように各支部長へ依頼した。

7. 会計マニュアルについて

地方会及び研修会の会計マニュアルを一部改訂した。

将来構想・運営調整委員会

担当理事：大西洋英（理事長）

委員：岡 政志、岡庭信司、加藤勝章、金岡 繁、藤谷幹浩、松田尚久、満崎克彦

委員会開催：4 回（Web 開催）

1. 支部演題優秀賞に関する運用方針について

支部演題優秀賞に関する運用方針について審議し、当委員会の意見を理事会に諮り承認を得た。

2. 「がん検診情報統計室」→「がん検診情報・研究推進室」設置へ

「がん検診情報統計室」（仮称）設置に関する具体的な方向性の検討について審議していく中で、統計学の専門家であり、かつ SE の技能を有する亀田総合病院附属幕張クリニック医療情報統計室長の島本武嗣氏と業務委託契約を結ぶことができた。については「がん検診情報統計室」から名称を「がん検診情報・研究推進室」と変更し、理事長直轄の組織として室長、室委員ならびに島本氏らにて構成される部署とし、学会員の研究計画立案や研究統計解析の相談対応を実施することでの学会員のスキル・キャリアアップ支援、ならびに全国集計調査の内容、精度、調査システムの利便性などの向上を任務として実施していくことで理事会の承認を得た。

3. 顧問弁護士の契約について

肝臓学会の顧問弁護士でもある村上康聡弁護士と 2023 年 12 月 1 日より顧問契約を行なった。

4. 旅費規程の適用範囲についての検討

本学会の旅費及び日当報酬規程（一部改正）の修正案について審議し、当委員会の意見を理事会に報告した。

5. 女性医師キャリア支援委員会（仮称）の設置について

女性医師キャリア支援委員会（仮称）の設置について検討し、本学会で活躍されている女性医師に何が求められているかを 5 名の先生方に意見を伺ったところ、ジェンダーや年齢に関わらず、検診に従事する学会員のキャリアアップを図るべきだということに概ね纏められた。よって、上記 2 の議題、「がん検診情報・研究推進室」でこのような意見を反映させ活動することで理事会の承認を得た。

6. 認定医制度規程の一部改正に関する検討

認定医制度規程について、対象とする「関連学会」を加える際の手順、大腸（便潜血）の実績数の 2 項目に関して一部改正を加えることを審議し、当委員会の意見として理事会に報告し承認を得た。

7. 理事長任期の改定についての検討

理事長の任期について、1期2年2期までと従来より1期短くすることを当委員会の意見として理事会に諮り、承認を得た。

8. 便潜血キットの OTC 化（一般検査薬への転用）に関する再検討について

厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課より要請された、便潜血キットの OTC 化に関する再検討について理事長から経緯の説明があり、本学会の今後の対応について、大腸がん検診精度管理委員会で審議し、その検討内容を理事会で諮り承認を得た。

9. 東京海上日動火災保険（株）が提供する「役員賠償保険」及び「サイバーリスク保険」に加入した件について

上記2つの保険契約が完了した。「役員賠償保険」の保険料については個人負担が発生する。

10. 日本膵臓学会「（国策としての仮称）膵癌検診導入検討委員会」への参画について

日本膵臓学会の北野理事から同委員会への参画について大西理事長に依頼があり、岡庭理事と大西理事長が参画することとした。

今後、関連学会の委員として提案など実施し状況については本委員会で報告する。

11. 対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル改訂ドラフト版について

遅くとも次回6月の総会開催時には出版できるよう、準備を進めている。

12. 2027 年度総会・大会会長候補について

各々1名ずつの立候補者された候補者について審議し、両候補を会長候補として理事会に諮り、会長とすることの承認を得た。

13. 胃がん内視鏡検診施設認定制度（案）について

胃がん内視鏡検診の精度向上を図り、更には学会入会のインセンティブになるような施設認定制度を策定することを当委員会にて検討してゆくことについて、理事会に諮り、検討してゆくことの承認を得た。

14. 役員選出細則一部改正についての検討

「役員候補詮衡委員会の委員選出について」の一部改正については、当委員会で審議することが難しい内容であったため、理事会にて理事長から直接提案し諮ることとした。理事会に諮った結果、継続審議となった。

財務委員会

担当理事：小川眞広

委員：鎌田智有、河合隆、廣岡芳樹、正宗 淳

委員会開催：2 回（web 開催）

1. 2022 年度財務諸表の確認と審議
2. 2024 年度予算

本部の予算、7 支部予算の審議

1) 本部

○事業活動収入について

- ・一般会員は増えているが正会員数などが減少し会費収入は約 7 千万円を見込んでいる。
- ・事業収入では、技師研修受講料は受講者数が増加し増収、認定手数料、認定研修受講料はそれぞれ減収を見込んでいる。
- ・学術集会収入では、広告・寄付金は減収、参加費、協賛金・展示はそれぞれ増収を見込んでいる。

以上の結果、事業活動収入は約 4 百万円の増収を見込んでいる。

○事業活動支出について

- ・総会において、会場費・運営費は支出増、旅費交通費・諸謝金・委託費・消耗品費はそれぞれ支出減を見込んでいる。
- ・広報費は、HP:個人ページの改修で支出増を見込んでいる。
- ・旅費交通費は、各種委員会が Web 開催により支出減を見込んでいる。
- ・印刷製本費は、英文誌掲載と総合認定医試験過去問題集作成により支出増を見込んでいる。
- ・諸謝金は、各種委員会の日当報酬を支払うため支出増を見込んでいる。

以上の結果、事業・管理費支出は約 1 億 3 千万円を見込んでいる。

3. 2) 支部

○収入について

- ・支部運営経費は会員数による本部からの補助金が主収入であるが、一部の支部で賛助会費（年会費）を徴収している。

○支出について

- ・支出は地方会、各種研修会の運営に伴う用途が主体であり、概ね昨年度実績を参考に計上されている。

4. 全体の収支について

法人全体では、正味財産期末残高は約 2 億円余りとなり、前年度比で約 137 万円余りの減少を見込んでいる。

5. 令和 5 年 10 月施行のインボイス制度に伴う、旅費規程変更について

令和5年10月1日より施行されるインボイス制度に伴い、現行の旅費規程について以下の通り変更に関して意見が出された。

1) 交通費

現行：経済的な通常の経路及び方法により計算した運賃（千円単位に調整）に日当相当3,000円を加算したものとする。

変更後：経済的な通常の経路及び方法により計算した旅費精算書（領収書などを添付）にもとづき実費運賃を支払う。

2) 日当報酬

現行：なし

変更後：委員会開催1日につき、日当報酬として5,000円（源泉所得税含）を支給する。

3) 宿泊費

現行：10,000円～15,000円（税抜）

変更後：宿泊が必要な委員会には、事務局が宿泊施設を手配する。

本件については規程案を持ち回りで検討し、理事会の提案事項とした。

6. 電子取引データの訂正削除の防止に関する事務処理規定について

電子帳簿保存法で法律上義務化されている「電子取引」を導入するにあたり、電子取引の保存要件である「真実性の確保」を「訂正削除の防止に関する事務処理規定の備え付け」とすることを審議し承認を得、理事会の提案事項とした。

7. 総会・大会・支部・地方会・各種研修会における会計マニュアルを以下のとおり一部改訂した。

・提出書類：電子取引したデータ

・参加費：会員（不課税）、非会員（課税）とし領収書を発行すること

代議員選考委員会

担当理事：小川眞広

委員：渡 二郎（北海道）、飯島克則（東北）、山口和也（関東甲信越）、
丹羽康正（東海北陸）、西村重彦（近畿）、日山 亨（中国四国）、
平賀聖久（九州）

委員会開催：1回（web開催）

- ・代議員改選は隔年であり今期は改選期に当たるため、代議員選出細則に基づいて代議員候補者を選考し、理事会に諮った。

2024年度代議員候補者（計9名）

関東甲信越支部 1名

関口正宇（国立がん研究センター中央病院内視鏡科/検診センター 医長）

東海北陸支部 1名

山本智支（藤田医科大学ばんだね病院消化器内科 准教授）

近畿支部 2名

北野雅之（和歌山県立医科大学第二内科学 教授）

若林直樹（JCHO 京都鞍馬口医療センター 健康管理センター 消化器内科部長）

中国四国支部 1名

村尾高久（川崎医科大学健康管理学 講師）

九州支部 4名

遠藤広貴（済生会唐津病院内科 光学診療部長）

宮原広典（鹿児島厚生連病院 副院長兼健康管理センター統括部長）

佐藤竜吾（大分県厚生連健康管理センター 副センター長）

松本俊郎（大分市医師会立アルメイダ病院放射線科 副院長・放射線部統括管理部長）

企画・広報委員会

担当理事：藤谷幹浩

委員：伊藤公訓、平賀聖久、間部克裕、盛一健太郎

委員会開催：1回(web開催)

1. 会員への情報発信の「メールマガジン」を定期及び臨時号として配信した。

定期 2023年4月～2024年3月まで 12回

臨時 第62回総会（参加登録案内） 1回

第63回総会（演題募集） 6回

第62回大会（演題募集） 2回

北海道支部会員向け 1回、関東甲信越支部会員向け 1回

東海北陸支部会員向け 2回、近畿支部会員向け 1回

中国四国支部会員向け 2回、九州支部会員向け 2回

2. 学会 HP の充実とパーソナルページの公開内容拡充について討議し、理事会に諮り承認された。

2023年8月24日委員会での審議

- 1) メールアドレス未登録の会員に対して、登録した場合のメリットを示したうえで「パーソナルページを利用した各種登録手続き拡充に伴うメールアドレス登録のお願い」を推進する。
- 2) 以下2点を、2024年度予算申請するため理事会に諮り承認可決された。
 - ① パーソナルページを利用した年会費及び各種手数料払込システム導入（案）
 - ② パーソナルページの会員情報開示項目の追加の検討

3. 学会 HP のアクセス状況（2023年4月～9月）につき、（2024年3月の）理事会に報告した。

倫理委員会

担当理事：岡 政志

副委員長：阪上順一

委員：川口 淳、小林 隆

外部委員：久津見弘（明石市立市民病院）

村上康聡（東高円寺法律事務所）

森亜希子（コンパッソ税理士法人）

委員会開催：2回（Web開催1回、メール審議1回）

1. 倫理指針について

JDDW2024 倫理指針の改正に伴い、本学会倫理指針、フローチャートを2024年1月22日に改定し、2月1日施行した。

2. 倫理審査報告について

<審査報告> 1件の審査が行われ、承認された。

また、倫第2022・002の変更申請があった。

<終了報告> 1件の終了報告があった。

<定期報告> 1件の定期報告があった。

3. 第62回総会時における社会医学セミナー（教育講演4）について

希望者には一般社団法人日本社会医学系専門医協会専門医更新K単位（1単位）の受講証明書を交付した。

「改正個人情報保護法施行に伴う2022年「生命・医学系指針」改正の要点」

講師：久津見 弘（明石市立市民病院）

司会：岡 政志（埼玉医科大学総合医療センター 消化器・肝臓内科）

現地受講

開催日時：2023年6月30日（金）15:20～16:20

会場：仙台国際センター展示棟 第1会場

受講証明書交付者数：9名

LIVE 配信受講・オンデマンド配信受講

開催日時：（LIVE 配信）2023年6月30日（金）15:20～16:20

（オンデマンド配信）2023年7月14日（金）正午～9月30日（土）正午

受講証明書交付者数：8名

4. 倫理委員研修について

久津見弘委員に JDDW2023 ワークショップ 23 「各種データベースを用いた内視鏡関連研究の利点と問題点」の基調講演「日本における医療情報の利活用の現状と課題」のスライドを提供いただき、研修を実施した。

利益相反委員会

担当理事：小池智幸

委員：川口 淳、日山 亨、源 利成

外部委員：亙理 茂（吉田総合司法事務所）、村上康聡（東高円寺法律事務所）

委員会開催：1回（メール審議）

1. COI 自己申告書について

- 1) 指針に則り、2023 年分（2020～2022 年間）の COI 自己申告書の提出を、役員（理事・監事）、幹事、代議員、学術集会会長、各種委員会委員長及び委員等に依頼したが、委員の一般会員 1 名再々のメール、郵送での督促を実施したが未提出のままとなっている。
- 2) 2024 年分（2021～2023 年 12 月 31 日）の COI 自己申告書については、6 月の代議員改選後の 7 月以降にそれぞれの先生方に提出を依頼する。

2. COI 自己申告書未提出について

自己申告書が未提出であった 1 名については、理事会で審議し当該委員会委員から外してもらうこととした。

編集委員会

担当理事：廣岡芳樹

副委員長：安田 宏

委員：伊藤高広、小田丈二、小林 望、只野敏浩、西村重彦、松田尚久、松原 浩、
間部克裕、三上達也、満崎克彦、盛一健太郎、山道信毅、山本智支、吉村理江、
渡 二郎

外部委員：服部 聡（大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座医学統計学）

委員会開催：13回（Web3回、メール審議10回）

1. 原稿依頼について

- ・総会、大会：講演、主題、一般演題（デジタルポスター）は司会（座長）推薦の演題
- ・地方会：講演、主題は司会推薦の演題

2. 投稿・査読状況について

1) 年度別投稿数の推移

年度	合計	会長 講演	原著	総説 ^{※1}	経験	調査 報告	症例 報告	症例 シリー ズ	この症 例に学 ぶ	Letter to the Editor
2021	30	0	12	11	2		5	0	0	0
	投：11 依：19		投：5 依：7	投：0 依：11	投：1 依：1		投：5 依：0			
2022	25	3	8	6	4	2	2	0	0	0
	投：7 依：18	投：0 依：3	投：3 依：5	投：0 依：6	投：2 依：2	投：0 依：2	投：2 依：0			
2023	25	0	10	7	4	3	1	0	0	0
	投：3 依：22		投：2 依：8	投：0 依：7	投：0 依：4	投：1 依：2	投：0 依：1			

※1 特別寄稿含む

2) 2023 年度論文種類別新規投稿数および採択論文数

(投稿期間 2023.4.1～2024.3.31、採択率 2024.4.26 現在)

種別	新規 投稿数	2023 年度採択・不採択論文数 内訳 ^{※2}		
		採択数	不採択数	採択率
会長講演	0	0	0	0%
原著	10	6	0	60%
総説	7	3	0	43%
経験	4	3	0	75%
調査報告	3	2	0	67%
症例報告	1	0	0	0%
症例シリーズ	0	0	0	0%
この症例に学ぶ	0	0	0	0%
Letter to the Editor	0	0	0	0%
計	25	14	0	56%

※2 審査中の論文があるので採択数と採択率は高まる可能性がある。

3) 論文受付から初回審査結果までの平均査読日数

平均査読日数
27.7 日

3. 論文以外の掲載内容について

- ・ 61 巻 suppl (1) 号は「第 62 回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・ 61 巻 suppl (2) 号は「第 61 回大会 (JDDW2023) プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・ 61 巻 5 号は「有賀記念学会賞受賞者の声」「学術奨励賞受賞者の声」を掲載した。
- ・ 62 巻 1 号は委員会報告「2020 年度消化器がん検診全国集計報告」「2020 年度消化器がん検診全国集計報告 (第 62 回総会 (仙台))」「2020 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告を掲載した。
- ・ 62 巻 2 号は、2023 年度地方会抄録 (7 支部) を掲載した。

4. 投稿規定一部改正について

投稿資格の制限を撤廃し、非会員でも投稿できるように改正し、2024 年 3 月 14 日より施行した。

改正前	改正後
<p>I. 投稿資格</p> <p>1. <u>投稿原稿の著者ならびに共著者は本学会会員に限る。病理組織所見が重要な意味を持つ論文に関しては病理医を共著者とすること。その場合、病理医は必ずしも会員である必要はない。また、生物統計家が研究や論文作成に貢献した場合は、共著者に含めてもよい。この場合も、本学会員である必要はない。</u></p> <p>2. 投稿原稿の内容は、消化器がん検診の進歩に寄与するもので、他誌に未発表のものに限る。なお、投稿に際しては、共著者を含めた全員の署名を必要とし、誓約書（様式1）をオンライン上にてアップロードする。なお、二重投稿については、学会ホームページに掲載されている「二重投稿に関する注意」を参照のこと。</p>	<p>I. 投稿資格</p> <p>1. 投稿原稿の内容は、消化器がん検診の進歩に寄与するもので、他誌に未発表のものに限る。なお、投稿に際しては、共著者を含めた全員の署名を必要とし、誓約書（様式1）をオンライン上にてアップロードする。なお、二重投稿については、学会ホームページに掲載されている「二重投稿に関する注意」を参照のこと。</p>

5. 消化器がん検診用語集第4版（2023）公開について

臨床系学会の用語集には収載されていないと思われるがん検診に関する用語、消化器がん検診の調査、研究などに必要な用語を中心とした用語集とし、学会ホームページで公開（PDF形式とExcel形式）した。

6. 査読委員と査読システムの変更について

査読委員を編集委員内にとどまらず代議員、非会員でその分野の専門家に幅広く査読者になってもらえるような査読フローに変更した。

7. 日本消化器がん検診学会の英文 official journal

学会の発展のためにはアカデミックな面の向上と国際化は不可欠であり、その方策の一つとして学会誌の英文 official journal について提案された。候補誌を検討中である。

8. 企画について

定期的に学会誌に企画を掲載する。初回の企画は、編集委員会で行う。1回で内容が完結するもので、1企画最大5編までとする。

9. J-STAGE 登載の際の英文表記について

- 「調査報告」 → Research Report
 「症例シリーズ」 → Case Series
 「有賀学会賞受賞者の声」 → Winners' voices of Kaizo Ariga Award for Cancer Screening
 「学術奨励賞受賞者の声」 → Winners' voices of best JSGCS Paper of the Year Awards

10. 機関誌掲載論文数

掲載論文 18 編（内訳：投稿 5、依頼 13）

11. 機関誌掲載内訳

	第 61 卷 3 号～第 62 卷 2 号 (2023 年度)	第 60 卷 3 号～第 61 卷 2 号 (2022 年度)	増 減 △
発刊号数	6 号+suppl 2 号	6 号+suppl 2 号	0 号
総頁数	426 頁	517 頁	△91 頁
原著	7 編	7 編	0 編
総説	3 編	9 編	△6 編
会長講演	0 編	3 編	△3 編
経験	4 編	2 編	2 編
調査報告	2 編	0 編	2 編
症例報告	2 編	2 編	0 編
症例シリーズ	0 編	0 編	0 編
この症例に学ぶ	0 編	0 編	0 編
Letter to the Editor	0 編	0 編	0 編
地方会抄録	7 編	7 編	0 編
委員会報告	3 編	4 編	△1 編
総会プログラム・抄録集	79 頁	111 頁	△32 頁
大会プログラム・抄録集	378 頁	354 頁	24 頁

認定医制度委員会

担当理事：大西洋英

副委員長：阪上順一（近畿）

委員：渡 二郎（北海道）、三上達也（東北）、中島寛隆・安田 宏（関東甲信越）、
金岡 繁・山崎幸直（東海北陸）、日山 亨（中国四国）、吉村理江（九州）

委員会開催：5回（Web3回、メール審議2回）

1. 第4回総合認定医試験結果について

試験（CBT方式）の合否判定の確認を行った。

申請者：131名

合格：127名

合格率：97.0%

2. 新規指導医審査結果について

2023年度 合格：17名

2024年度 合格：18名（但し、申請スケジュール変更に伴い、2023年度に審査を行った）

3. 新規指導施設審査結果について

2023年度 合格：7名

2024年度 合格：1名（但し、申請スケジュール変更に伴い、2023年度に審査を行った）

4. 総合認定医更新審査結果について

合格：322名

5. 区分毎認定医更新審査結果について

2023年度 合格：81名

2024年度 合格：58名（但し、申請スケジュール変更に伴い、2023年度に審査を行った）

6. 指導医更新審査結果について

2023年度 合格：42名

2024年度 合格：43名（但し、申請スケジュール変更に伴い、2023年度に審査を行った）

7. 指導施設更新審査結果について

2023年度 合格：13名

2024年度 合格：13名（但し、申請スケジュール変更に伴い、2023年度に審査を行った）

8. 指導施設状況確認について

127 施設における認定医・指導医の在籍状況を行ったところ 115 施設は要件が満たされていた。保留は 11 施設、辞退は 1 施設であった。

9. 総合認定医制度ならびに認定医制度の規程一部改正

1) 消化器がん検診総合認定医制度規程の認定基準（改正日：2023 年 11 月 3 日）

<胃>

改正前) 検診のスクリーニング検査として総症例数 2,000 件以上（X 線読影、内視鏡検査のいずれでも可）

改正後) 胃がん検診実績数として、胃 X 線読影または上部消化管内視鏡検査（スクリーニング、精密検査のいずれでも可）を総症例数 1,000 例以上

<大腸>

改正前) ① 便潜血検査数 3,000 例（判定と説明）以上、及び

② 全大腸内視鏡によるスクリーニング、あるいは精密検査（全大腸内視鏡検査、大腸 CT 検査、S 状結腸鏡と注腸 X 線検査の併用）300 例以上

改正前) 便潜血検査数 1,000 例（判定と説明）以上、または、全大腸内視鏡によるスクリーニング、あるいは精密検査（全大腸内視鏡検査、大腸 CT 検査、S 状結腸鏡と注腸 X 線検査の併用）300 例以上

2) 両制度共通施行細則の新設（改正日：2023 年 6 月 30 日）

「認定医制度委員会」と「指導医・認定指導施設」の事項は総合認定医制度と認定医制度に重複していたため、共通細則「消化器がん検診総合認定医制度規程及び消化器がん検診区分毎認定医制度規程における認定医制度委員会の運営、指導医・認定指導施設に関する共通施行細則」を新設した。

3) 区分毎認定医（改正日：2023 年 6 月 30 日）

・従来の「認定医」の資格を明確にするために改称した。

改正前) 認定医

改正後) 区分毎認定医

・認定日（4 月 1 日）までに認定証を発送するために更新申請の締切日を変更した。

改正前) 認定更新申請は毎年 3 月 31 日までに学会事務局に送るものとする。

改正後) 認定更新申請は毎年 11 月 30 日までに学会事務局に送るものとする。

4) 総合認定医（改正日：2023年6月30日）

- ・新規申請の際の単位取得期間を変更した。

改正前) 3年前の4月1日～申請年の6月30日まで

改正後) 3年前の4月1日～申請年の本学会総会まで

- ・更新申請の際の単位取得期間を変更した。

改正前) 初回更新は認定期間開始前年の7月1日より5年後の11月30日とする。

改正後) 初回更新は認定期間開始前年の7月1日より5年後の11月30日とする。但し、総合認定医取得年の前年に開催された本学会総会は初回認定更新のための業績とは認めない。

5) 指導医、認定指導施設（改正日：2023年6月30日）

- ・認定日（4月1日）までに委嘱状を発送するために新規申請の締切日を変更した。

改正前) 6月30日

改正後) 11月30日

- ・認定日（4月1日）までに委嘱状を発送するために更新申請の締切日を変更した。

改正前) 3月30日

改正後) 11月30日

- ・指導医申請の際の推薦者を変更した。

改正前) 支部長

改正後) 指導医1名あるいは代議員1名

- ・認定指導施設申請の際の推薦者を変更した。

改正前) 支部長

改正後) 代議員1名

教育・研修委員会

担当理事：鎌田智有

副委員長：伊藤高広

委員：河合 隆、小池智幸、小林 望、永田浩一、眞部紀明、山口和也

委員会開催：2回（メール審議）

1. 2023年度第4回医師研修会について

1) 開催概要

- ・オンデマンド配信期間：2023年7月2日（日）正午～13日（木）正午
- ・申込者数：Aセッション 338名
Bセッション 336名

2) プログラム

Aセッション：消化器がん検診の基本と課題

- ・がん検診総論（60分）

講師：金岡 繁（浜松医療センター）

- ・胃がん検診の基本と今後の課題（30分）

講師：入口陽介（東京都立がん検診センター）

- ・大腸がん検診の基本と課題（30分）

講師：関口正宇（国立がん研究センター中央病院）

- ・肝胆膵領域のがん検診の現状と課題（30分）

講師：阪上順一（市立福知山市民病院）

Bセッション：消化器がんについてもっと知ってほしいこと

- ・バレット食道と食道腺がん（30分）

講師：小池智幸（東北大学病院）

- ・胃内視鏡検診の今後の展望（30分）

講師：井上和彦（淳風会健康管理センター）

- ・大腸CT検査の今後の展望（30分）

講師：松本啓志（川崎医科大学）

- ・膵がん早期診断をめざして（30分）

講師：花田敬士（JA尾道総合病院）

- ・胃X線読影の達人をめざして（30分）

講師：小田丈二（東京都立がん検診センター）

2. 2023 年度第 5 回医師研修会について

1) 開催概要

- ・申込期間：2024 年 2 月 1 日（木）正午～6 月 30 日（日）23：59
* 申込期間をオンデマンド配信最終日までとした。
- ・オンデマンド配信期間：2024 年 6 月 9 日（日）正午～30 日（日）23：59

2) プログラム

A セッション：消化器がん検診の基本と展望

- ・消化器がん検診総論（60 分）
講師：高橋宏和（国立がん研究センターがん対策研究所）
- ・胃がん検診の基本と展望（30 分）
講師：安田 貢（安田内科）
- ・大腸がん検診の基本と展望（30 分）
講師：鈴木康元（松島病院）
- ・腹部超音波検診の基本と展望（総論・保存画像の重要性を含めて）（30 分）
講師：西村重彦（住友病院）

B セッション：消化器がんに関連する最近のトピックス

- ・上部消化管内視鏡スクリーニングの最先端-変わりつつある上部消化管内視鏡所見（30 分）
講師：河合 隆（東京医科大学 内視鏡センター）
- ・食道癌・頭頸部癌の発生リスクと内視鏡診断（30 分）
講師：堅田親利（京都大学）
- ・大腸 CT 検査の今後の展開（30 分）
講師：服部昌志（山下病院）
- ・「腹部超音波検診判定マニュアル」の具体的な活用術（30 分）
講師：平井都始子（奈良県西和医療センター）
- ・日本における医療情報の利活用の現状と課題（30 分）
講師：岡 政志（埼玉医科大学総合医療センター）

3. 医師研修会（DVD）の支部での利用状況について

- ・第 52 回北海道地方会（2023 年 7 月 22 日）
「第 2 回（2021 年度） 医師研修会 A」
救命可能な膵がん発見をめざして
講師：田中幸子（大阪がん循環器病予防センター）

4. JDDW 教育講演 について

JDDW2023 教育講演会において「大腸内視鏡スクリーニングの現状と将来像」が採用され、松田尚久先生が演者となった。

試験委員会

担当理事：金岡 繁

委員：非公開

委員会開催：9回（Web開催1回、メール審議8回）

1. 第4回総合認定医試験の実施について

1) 実施概要

- ・試験日：2023年11月19日（日）13：00～14：20（80分）
- ・受験者数：131名
- ・試験方式：CBT方式（一斉試験） 業者：株式会社 CBT ソリューションズ
- ・実施会場：53会場

2) 試験前講義

- ・オンデマンド配信期間：2023年11月1日（水）正午～18（土）23：59
- ・講義時間：1講義（20分）×4講義（80分）
- ・講義内容：
 - 総説 講師：金岡 繁（浜松医療センター）
 - 胃 講師：小林 隆（藤田医科大学ばんだね病院）
 - 大腸 講師：松田一夫（福井県健康管理協会）
 - 肝胆膵 講師：阪上順一（市立福知山市民病）

3) 特例措置

新型コロナウイルス感染などにより受験困難な場合は、特別措置を適応し、次年度の受験を可としたが該当者はいなかった。

2. 第5回総合認定医試験について

1) 実施概要

- ・試験日：2024年11月24日（日）14：00～15：20
 - *開始時間は第5回より13：00→14：00に変更
- ・試験方式：CBT方式（一斉試験） 業者：株式会社 CBT ソリューションズ
- ・会場：全国に設置のCBTテストセンター

2) 試験前講義

- ・オンデマンド配信：2024年11月1日（金）正午～11月23日（土）23：59（予定）
- ・講義時間：1講義（20分）×4講義（80分）

3. 精査に関する設問について

統計や画像問題に関する設問の方針を決めた。

4. 過去問集作成について

- ・掲載内容：第1～第3回試験問題全問（40問×3回分＝120問）
- ・学習しやすいように「分野別（がん検診総論、胃、大腸、肝胆膵）」かつ「疫学」「基礎」「検査法」「臨床」のテーマ別に掲載する。
- ・作成費用、販売価格を抑えるために、1ページに2問掲載するなど工夫する。
- ・諸事情により発刊が予定より遅れているため、第5回総合認定医試験は試験前講義で対応することとなったが2024年年内中に発刊する。

5. 作問委員の追加について

5名の作問委員を追加した。

ブラッシュアップ小委員会

担当理事：金岡 繁

委員：非公表

委員会開催：4回（Web開催1回、メール審議3回）

・第4回総合認定医試験問題

総論、胃、大腸、肝胆膵の各分野から選出された問題について各10題を確定し、適切な文章に修正を行った。

学会賞受賞者選考委員会

担当理事：伊藤高広

副委員長：松田尚久

委員：安保智典、飯島克則、大洞昭博、岡庭信司、日山 亨、平賀聖久

委員会開催：2回（Web開催1回、メール審議1回）

1. 学術奨励賞の候補者について、基準に照らし合わせ選考を行い、理事会に答申した。

学術奨励賞 1名

・星 千春（宮城県対がん協会）

対象論文：胃がん検診車における放射線量の実態調査と装置管理の重要性

2022:60(3):342-356

2. 国際研究助成事業規程の制定

大西理事長より、規約を制定したうえで運用するのが適切であるとの指摘により、国際研究助成事業規程素案を作成した。

3. 国際研究助成の募集要項の見直しについて

研究成果の公表について見直しを行った。

4. 学術奨励賞の審査評価基準について

審査評価基準の内容を見直し、一部改正した。

5. 国際学会参加支援応募要項の見直しについて

国際学会参加支援申請書を見直し、一部改訂した。

2～5は次回の理事会（2024年度6月）の承認を得て、次年度より施行とする。

全国集計委員会

担当理事：大西洋英

顧問：松浦隆志

副委員長：山道信毅

委員：平山眞章（北海道）、村上晶彦（東北）、今武和弘・鈴木康元（関東甲信越）、
宗本義則（東海北陸）、蘆田玲子（近畿）、鎌田智有（中国四国）、
平賀聖久（九州）

委員会開催：なし

1. 2022 年度（2020 年度分）全国集計について

1) 協力施設について

2021 年度（2019 年度分）より 79 施設ほど増加し、329 施設となった。

2) 集計結果報告について

- 1) 胃がん発見率は 0.052%、要精検率 5.1%、精検受診率 61.2%と昨年度調査と比べがん発見率、要精検率、精検受診率ともにわずかだが低下している。大腸がん発見率は 0.115%、要精検率 5.9%、精検受診率 56.4%と昨年度調査と比べにがん発見率、精検受診率はやや低下傾向、要精検率はわずかに増加している。
- 2) 胃がん内視鏡検診については、受診者数が 45 万件強と昨年度調査よりも 8 万件強増加しており、昨年までの減少傾向から一転、増加した。受診者数に対し、発見胃がん数は 801 件のうち、早期胃がん数は 651 件、発見率は 0.14%となった。食道がんの発見数は 152 件のうち、早期がん数は 96 件、発見率は 0.02%であった。読影方法については、シングルチェックの割合は 2015 年度からの推移を継続的に見ると減少傾向ではあるものの、まだかなりの施設がダブルチェックを行っていないようである。

2. 2023 年度（2021 年度分）全国集計について

- ・ 8 月下旬に全国集計調査の依頼を行った。集計実施期間は 2023 年 8 月 30 日から 12 月 20 日としたが、期限を延長し 2024 年 1 月 6 日までとした。

がん検診情報統計室設置検討小委員会

担当理事：大西洋英

顧問：松浦隆志

副委員長：山道信毅

委員：藤谷幹浩、岡庭信司

委員会開催：1回（Web開催）

小委員会の設置経緯：

- ・本会が扱うデータベースの管理、それをを用いた様々な解析を行うための統計・データベース管理の専門家1名をがん検診情報統計室長として雇用し、学会活動の充実化を図る目的で「がん検診情報統計室」設置を検討するための小委員会を発足。
- ・当小委員会として、現在の全国集計調査事業の見直しを視野に入れた検討も行う。

1. 2023年度（2021年度分）の全国集計調査について

- ・今まで全国集計調査は毎日学術フォーラムに業務委託にて実施してきたが、同社の諸事情により2023年度集計調査の終了をもって業務受託を終了することになり、それを機に集計調査の実施方法について再検討が必要となった。

2. 全国集計調査を含めた「がん検診情報統計室」（仮称）設置に関する具体的な方向性の検討

- ・毎日学術フォーラムの業務委託終了を踏まえ、以下の通りとなった。
現行のオンライン入力システムは継続して利用し、集計したデータを「がん検診情報・研究推進室」が解析する。

3. 「がん検診情報・研究推進室」設置について

本小委員会は発展的解消し、以下の目的により「がん検診情報・研究推進室」を設置する。

目的：全国集計調査データの管理、ならびに、それをを用いた様々な解析を行う統計の有効活用および会員のがん検診に関する研究などのキャリアアップ支援を行うためがん検診情報・研究推進室を設置し、学会活動の充実化をはかることを目的として、がん検診情報・研究推進室設置規約を制定した。

- ・統計、データ解析の外部専門家として、島本武嗣氏（亀田総合病院附属幕張クリニック医療統計室長）と業務委託を締結した。

「がん検診情報・研究推進室」の構成委員は次の通りである。

統括責任者：大西洋英理事長

室長：山道信毅（東京大学医学部附属予防医学センター）

室委員：

胃：鈴木英雄（つくば消化器・内視鏡クリニック内科・胃腸内科、筑波大学附属病院）

大腸：山口和也（ちば県民保健予防財団総合健診センター）

胆膵：水野 卓（埼玉医科大学消化器内科）

アドバイザー：島本武嗣（亀田総合病院附属幕張クリニック医療情報統計室）

胃がん検診精度管理委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：小池智幸

委員：青木利佳、赤羽たけみ、安保智典、鎌田智有、高橋宏和

委員会開催：7回（Web開催2回、メール審議5回）

1. 胃がん検診偶発症アンケート調査について

- ・2020年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告を学会誌62巻1号に掲載した。

なお、巻末に参考資料として過去3年分の胃X線検診の偶発症調査の概要と胃内視鏡検診の偶発症調査の概要を掲載した。

- ・2021年度胃がん検診偶発症アンケート調査を全国施設協力施設に依頼した。

2. 対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル改訂版

対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル改訂版（ドラフト版）を確認した。

3. 総合認定医制度規程の認定基準（胃）について

将来構想・運営調整委員会より総合認定医認定基準（胃）の実務経験について、見直しが必要か胃がん検診精度管理委員会で検討して欲しいとの依頼があり検討を行い、下記改正案を認定医制度委員会に提案した。

改正前)

胃：検診のスクリーニング検査として総症例数2,000件以上（X線読影、内視鏡検査のいずれでも可）

改正案)

胃：胃がん検診実績数として、胃X線読影または上部消化管内視鏡検査（スクリーニング、精密検査のいずれでも可）を総症例数1,000例以上

4. 厚労省がん疾病対策課・全衛連・学会の共同による胃がん検診精度管理に関する調査

厚労省がん疾病対策課・全衛連・学会の3者共同で令和4年11～12月に胃X線検診及び胃内視鏡検査検診の検査実績、施設・スタッフ・運用・精度管理の現状についてアンケート調査を行った。現在、集計結果を厚労省で確認中、承認後に全衛連HPや学会委員会報告で公表予定。アンケート協力施設には冊子版を作成して配布予定。

対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル改訂版編集委員会

担当理事：加藤勝章

委員：浅沼清孝、安保智典、井口幹崇、入口陽介、小池智幸、雑賀公美子、高橋宏和、
町井涼子

外部委員：中山富雄（国立がん研究センター検診研究部）

委員会開催：6回（Web開催3回、メール審議3回）

対策型検診のための胃内視鏡検診マニュアル（改訂版）について

対策型胃内視鏡検診の目的は胃がんによる死亡率減少であり、胃がん以外の悪性腫瘍は胃内視鏡検診の精度管理対象としないことを方針に、胃内視鏡検診の実施体制や精度管理体制の見直しを図った。

1. 目次

- I. 本書の目的，位置づけ
- II. 胃がん検診の目的，検診・診療の違い
- III. 胃がん検診としての胃内視鏡検査の科学的根拠
- IV. 胃内視鏡検診の流れ
- V. 胃内視鏡検診を実施するうえで実施主体が整備すべき体制
- VI. 胃内視鏡検診の対象者
- VII. 検査機関が整備すべき検査機器
- VIII. 胃内視鏡検診の対象者に説明すべきこと，インフォームド・コンセント，問診
- IX. 胃内視鏡検査の実施手順
- X. 読影医によるダブルチェックの実施と検診結果区分の決定
- XI. 受診者への検診結果の通知と精密検査の実施
- XII. 胃内視鏡検診事業の評価（精度管理評価）
- XIII. 資料1：精度管理の基本的な考え方
- XIV. 資料2：帳票の例
- XV. Q&A

2. 関連学会，パブリック・コメントの募集

募集期間：2024年3月7日（木）から3月15日（金）

3. 出版

2024年5月下旬に株式会社南江堂より出版予定。

胃 X 線検診における DRL (診断参考レベル) 策定小委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：小田丈二

委員：〔医師〕伊藤高広

〔技師〕大久保誠、菅野宏之、小牟田学、重松 綾、末松裕之、西川 孝、見本真一
山本兼右

外部委員：長束澄也（コニカミノルタ株式会社）

山内宏祥（バイエル薬品株式会社）

委員会開催：2 回（コアメンバーによる Web 委員会、調査協力施設への Web 説明会）

1. 調査協力施設への説明会について

オンラインにて調査概要とプロトコル概要について説明し、質疑応答を行った。

2. データフローについて

1) 全国労働衛生団体連合会（全衛連）経由にてデータ提出を予定していたが、安全性と効率性を再検討した結果、本学会に直接提出していただくフローに変更することとした。

2) プロトコル変更に伴い、学会倫理審査委員会に変更届を提出し、再度審査することとなった。（受付番号：倫第 2022・002）

3. 今後の目標について

対策型胃 X 線検診において厚労省が指針と定めている本学会発刊の「新・胃 X 線撮影法ガイドライン」改訂の際に、DRL 基準値と管理目標値を組込み、最終的に 2025 年度改訂予定の J-RIME の「診断参考レベル」に反映してもらえるよう進める予定である。

新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版編集委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：小田丈二

委員：安保智典、小牟田学、重松 綾、千葉隆士、西川 孝、原田淳也、見本真一、
奥田圭二、久保田憲宏、高橋伸之、村岡勝実、山岸史明

委員会開催：3 回（Web 開催 1 回、メール審議 2 回）

新・胃 X 線撮影法ガイドライン（改訂版）について

1.改訂版発刊の経緯

新・胃 X 線撮影法ガイドラインは 2011 年度版から 12 年あまり経過し、この間に造影剤や改良や撮影装置の進歩、デジタル化が進み、また、2016 年には胃 X 線検診のための読影判定区分（カテゴリー分類）も本学会から公表され、より精緻な胃 X 線画像の撮影が求められるようになってきている。これまで、撮影法については、NPO 法人日本消化器がん検診精度管理評価機構（精管構）が撮影技師の技術指導や実技試験を担ってきたところであるが、NPO 精管構が 2023 年度末をもって解散するため、本学会としては新・胃 X 線撮影法ガイドラインに新しい知識を加えた更新版を作成し、撮影法の精度管理にあたることにした。

2.方針

NPO 精管構の基準撮影法と学会の新・胃 X 線撮影法には僅かな差異があるため、これを整理し、基準撮影法をベースに撮影法の更なる標準化を図るとともに、有効性評価に基づく胃がん検診ガイドライン 2014 年による精度評価、DRL 調査による被曝量の管理目標の設定、偶発症調査を基盤とした安全対策などの情報を追加する。

3.構成案

- I. 胃 X 線検査の基準撮影法
- II. 胃 X 線検診の精度
- III. 撮影機器の保守整備
- IV. 胃 X 線検診の実施と安全管理対策

4.今後の予定

第 63 回総会（名古屋）の放射線フォーラムの中でコンセンサスメETINGを開いてコンセンサスを得、12 月頃にドラフト版を完成させてパブリックコメントを募集した後に、2025 年 4 月頃に発刊予定である。

胃 X 線検診読影補助認定委員会・読影 e-ラーニング小委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：山道信毅

委員：安保智典、入口陽介、小田丈二、千葉隆士

(読影 e-ラーニング小委員会：加藤勝章(委員長)、山道信毅(副委員長)、青木利佳、安保智典、伊藤高広、入口陽介、小田丈二、蔵原晃一、千葉隆士、仲村明恒、萩原 武、原田容治、満崎克彦、安田 貢)

委員会開催：3 回 (Web 開催 1 回、メール審議 2 回)

1. 2023 年度読影補助認定審査結果について

- 1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。
申請者 100 名 (合格者 100 名)
尚、要件不足により 2 名の認定を取消した。
- 2) 100 名に認定証を交付した。
- 3) 2023 年度 e-ラーニング受講者数は 101 名であった。

2. 2024 年度読影 e-ラーニング講習について

- 1) 講習内容変更に伴い、下記講義の収録を行った。
 - ・ 総 論：山道 信毅 (東京大学医学部附属病院予防医学センター)
 - ・ 背景粘膜：青木 利佳 (徳島県総合健診センター)
 - ・ 局所所見：小田 丈二 (東京都立がん検診センター)
- 2) 症例問題
 - ・ 読影 e-ラーニング小委員会にて症例問題の検討し、13 例を追加した。
 - ・ 合計 126 題からシャッフルされた 50 題が症例問題として出題される。

3. 読影補助認定制度規程・施行細則の一部改正について

下記のとおり申請要件一部改正を行い、2024 年 2 月 13 日より施行した。

新規申請要件：「胃がん検診専門技師研修会」除外

更新申請要件：「過去 5 年間で総数 500 例以上の胃 X 線検診実績報告書」追加

大腸がん検診精度管理委員会

担当理事：松田尚久

副委員長：満崎克彦

顧問：野崎良一

委員：小林 望、鈴木康元、関口正宇、只野敏浩、服部昌志、三上達也、山口和也
オブザーバー 金岡繁副理事長

委員会開催：2回（Web開催1回、メール審議1回）

1. 便潜血検査キットの一般用検査薬への転用に関する件について

厚生労働省より、便潜血キットの OTC 化を進めるに件について学会としての見解を求められたため以下の理由を挙げ、賛同しかねるという旨、意見書を作成した。

- 1) 一般用検査薬への転用の仕組みに関する通達に反している。
- 2) 第4期がん対策推進基本計画に逆行している。

2. 大腸がん検診精度管理委員会の年次計画について

大腸 CT 検査技師認定制度の周知や認定制度の有効活用に繋げるために、厚生労働省が掲げている大腸がん検診に関する指針のなかで、現在ほとんど行われていない検査（注腸造影検査や S 状結腸鏡検査）の見直しと修正を訴えていくことを、大腸がん検診精度管理委員会と大腸 CT 検査技師認定委員会、両委員会での今後 2～3 年の目標としたい。以上のことから、大腸がん検診精度管理委員会と大腸 CT 検査技師認定委員会、両委員会の次回以降の審議事項として検討していくことが確認された。

大腸 CT 検査技師認定委員会

担当理事：満崎克彦

副委員長：永田浩一

委員：遠藤俊吾、高林 健、鶴丸大介、富松英人、服部昌志、松本啓志、八坂貴宏、
安田貴明、松田勝彦

委員会開催：2回（Web開催2回）

1. 2023年第4回大腸CT検査技師研修会について

1) 開催概要

- ・開催方法：総会がWeb開催であったため、オンデマンド配信とした
- ・配信期間：2023年7月2日（日）正午～13日（木）正午
- ・申込者数：大腸CT検査教育研修会 145名
大腸CT検査実践トレーニングコース 91名

2) 大腸CT検査教育研修会 プログラム

総論（エビデンス、精度、ガイドライン等）	富松英人
各論（前処置）	遠藤俊吾
各論（撮影法）	遠藤俊吾
各論（読影の概略）	八坂貴宏

3) 大腸CT検査実践トレーニングコース プログラム

（ワークステーションを使ったデモンストレーション） 80分

概論	読影の流れ	司会・操作：高林 健
症例提示	病変との鑑別	サポート：富松英人
症例提示	腫瘍性病変	遠藤俊吾
症例提示	偽陽性・偽陰性	八坂貴宏
症例提示	ピットホール	

2. 2023年度大腸CT検査技師認定制度

新規認定審査：大腸CT検査技師認定25名 大腸CT検査技術認定施設 27施設

3. 大腸CT検査技師認定を受けた会員が所属する未申請施設に案内を送った

4. 大腸CT検査技師認定制度規程細則の一部改正について

2024年度から大腸CT検査技術認定施設の更新申請が始まることに伴い、「更新申請に関すること」、「更新保留に関すること」、「認定基準を満たさなくなった場合のこと」を新たに追加した。

5. 2024年第4回大腸CT検査技師研修会について

- 1) 開催方法：総会がハイブリッド開催のため、総会開催日時に合わせてオンデマンド配信とする。
- 2) 大腸 CT 検査実践トレーニングコースは第 1 回（2020 年度開催）に収録した DVD を再利用することとなった。
- 3) プログラム
 - ・ 大腸 CT 検査教育研修会

総論（エビデンス、制度、ガイドライン等）	富松英人
各論（前処置）	遠藤俊吾
各論（撮影法）	遠藤俊吾
各論（読影の概略）	八坂貴宏
 - ・ 大腸 CT 検査実践トレーニングコース（ワークステーションを使ったデモンストレーション）

司会・操作：有馬浩美	
サポート　：永田浩一、服部昌志、松本啓志	
概論	読影の流れ
症例提示	病変との鑑別
症例提示	腫瘍性病変
症例提示	偽陽性・偽陰性
症例提示	ピットホール

検診従事者委員会

(委員構成：支部推薦の認定医、認定技師、保健師)

担当理事：入口 陽介

副委員長：小田 丈二

委員：〔北海道〕 萩原 武、鈴木康雄、小野寺紀代美
〔東北〕 千葉隆士、菅野宏之、柴田せつ子
〔関東甲信越〕 中島寛隆、見本真一、小川敬子
〔東海北陸〕 田中 努、西川 孝
〔近畿〕 伊藤高広、末松裕之、池宮城賀恵子
〔中国四国〕 安田 貢、大久保誠
〔九州〕 水口昌伸、池田晶子

委員会開催：1回（メール審議1回）

放射線フォーラムについて

1. 2023年度第62回総会（宮城県）について

- ・テーマ「胃 X 線検診のための適正な透視観察について～胃 X 線検診のための DRL 策定に向けて～」で開催した。

2. 2024年度第63回総会（愛知県）について

- ・テーマ「新・X線撮影法ガイドライン改訂に向けて」で開催を予定している。

胃がん検診専門技師認定委員会

(委員構成：保健師を除く検診従事者委員が兼務)

担当理事：入口 陽介

委員：〔北海道〕萩原 武、鈴木康雄 〔東北〕千葉隆士、菅野宏之
〔関東甲信越〕中島寛隆、見本真一 〔東海北陸〕田中 努、西川 孝
〔近畿〕伊藤高広、末松裕之 〔中国四国〕安田 貢、大久保誠
〔九州〕水口昌伸

委員会開催：4回（メール審議）

1. 2023年度認定技師新規審査結果

- 1) 基準に基づいて審査をした結果、下記のとおり承認された。
申請者 207名（合格者 197名、不合格者 10名）
なお、不合格者 10名の審査料を翌年のみ繰越すことを認めた。
- 2) 新規合格者 197名に認定証を交付した。

2. 2023年度認定技師更新審査結果

- 3) 基準に基づき審査をした結果、下記のとおり承認された。
更新該当者 654名（合格者 430名、認定保留 117名、不合格者 3名、認定取消 104名）
なお、不合格者 3名の審査料を翌年のみ繰越すことを認めた。
- 4) 更新合格者 430名に認定証を交付した。

3. 2025年度更新対象からの更新単位改正

- ・技師研修会の必須によるもの、本学会によるものについて加点をした。

4. 2023年度第8回胃がん検診専門技師研修会について

第5回より現地開催を中止とし、やむを得ずオンデマンド配信としていたが、第8回からは必須単位として参加しやすいオンデマンド配信を基本とすることとなった。

配信期間：2023年10月2日(月)～10月16日(月)までの2週間

参加者人数：525名

受講料：5,000円

[プログラム]

講義Ⅰ「胃がん検診専門技師認定制度、認定試験について」

講師：入口 陽介（東京都立がん検診センター）

講義Ⅱ「全国集計から見る現状の胃がん検診の精度と課題点について」

講師：松浦 隆志（福岡国際総合検診センター）

講義Ⅲ「偶発症の全国集計から見る胃がん検診のリスクマネジメントについて」

講師：加藤 勝章（宮城県がん協会 がん検診センター）

講義Ⅳ「新・胃X線撮影法について」

講師：山岸 史明（東京都立がん検診センター）、和田 昌訓（神奈川県予防医学協会）

講義Ⅴ「読影補助と認定制度について」

講師：山道 信毅（東京大学医学部附属予防医学センター）

講義Ⅵ「スキルアップに必須の胃がん病理学 ～潰瘍合併、胃型、除菌～」

講師：市原 真（JA北海道厚生連 札幌厚生病院）

5. 2024年度第9回胃がん検診専門技師研修会について（2024年度より総会時に開催）

下記の要綱にてオンデマンド配信することとなった。

申込期間：2024年2月1日(木)～6月30日(日)

配信期間：2024年6月9日(日)～6月30日(日)

対象者：日本消化器がん検診学会 胃がん検診専門技師認定資格保有者および更新保留者

予定参加数：500名

受講料：5,000円

代表世話人：[近畿支部] 伊藤高広 医師委員、末松裕之 技師委員

[プログラム]

講義Ⅰ「胃がん検診専門技師認定制度、認定試験について」

講師：入口 陽介（東京都立がん検診センター）

講義Ⅱ「胃がん検診の精度管理についてー機器の保守、デジタル画像の調整方法を含めてー」

講師：細見 聡（京都工場保健会神戸健診クリニック）

講義Ⅲ「撮影法についてー牛角胃・横胃に対する工夫 有所見例への追加撮影の実際ー」

講師：小豆 誠（育和会記念病院）

講義Ⅳ「食道のX線撮影法、診断の実際」 講師：松尾 祥弘（飯島クリニック）

講義Ⅴ「読影補助認定制度についてー読影補助認定制度の概要、読影判定区分の基本と要点ー」

講師：山道 信毅（東京大学医学部附属病院予防医学センター）

講義Ⅵ「背景粘膜診断について ー胃X線検診の背景胃粘膜診断ー」

講師：青木 利佳（徳島県総合健診センター）

講義Ⅶ「胃がんのX線像と病理の対比 ー基本から応用までー」

講師：市原 真（JA北海道厚生連 札幌厚生病院）

胃がん検診専門技師認定試験委員会

委員：8名（非公開）

委員会開催：6回（Web）

NPO 法人日本消化器がん検診精度管理評価機構の解散に伴い、2024年度より本学会にて専門技師認定試験を下記の要綱にて行うこととなった。

1. 試験実施要項

申請書類提出期間：2024年5月1日（水）～6月30日（日）まで ※先着：500名

試験前講義：2024年11月下旬～12月14日（土）（予定） ※オンデマンド配信

試験日時：2024年12月15日（日） 14:00～15:20の80分（予定）

実施方法：CBT方式（一斉試験）

コンピューターを利用した試験(CBT：Computer Based Testing)方式

出題数：40題

認定試験料：10,000円

認定料：15,000円

2. 試験までのスケジュール

2024年6月：試験問題確定

2024年7～8月：試験前講義収録

2024年9月：CBTへ試験問題提出

2024年10月：問題最終確認と責了、試験前講義収録最終確認

2024年11月：試験前講義配信

2024年12月：試験当日

2025年1月：合否判定

胃がん検診専門技師認定作問委員会

委員：16名（非公開）

委員会開催：1回（Web）

上記試験の作問をし、107題の提出があった。

超音波検診委員会

担当理事：岡庭信司

委員：小川真広

各支部委員：久居弘幸、藤井常志、石本博基（北海道） 正宗 淳、小野博美（東北）
松本直樹、山本美穂（関東甲信越） 大野栄三郎、笹木優賢（東海北陸）
西村重彦、森 雅美（近畿） 眞部紀明、渡邊敏充（中国四国）
西 潤子、平賀真雄（九州）

委員会開催：1回（メール審議）

1. 第 63 回総会（名古屋）超音波フォーラムの企画について

- ・教育講演「胆膵の腹部超音波診断 スクリーニングから精査まで」

講師：橋本千樹（藤田医科大学ばんだね病院 消化器内科）

司会：久居弘幸（伊達赤十字病院 消化器科）

- ・症例検討

司会：松原 浩（豊橋市民病院）

木浦 伸行（豊橋市民病院）

- ・症例提示施設

JA 愛知厚生連海南病院（愛知県）

公立 西知多総合病院（愛知県）

もう 1～2 施設追加予定

- ・クイズセッション

司会：渡邊幸信（日本大学病院 消化器内科）

岩下和広（飯田市立病院 放射線技術科）

笹木優賢（藤田医科大学病院 臨床検査部）

2. 腹部超音波検診判定マニュアル改訂版（2021 年）について

1) 別刷配布

「第 62 回日本消化器がん検診学会総会」「第 82 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会」「第 64 回日本人間ドック学会学術大会」「日本超音波医学会第 44 回中部地方会」などで配布した。

2) 英文版マニュアル

2023年1月に超音波医学英文誌に open access 掲載とした英語版は 4,095 件のアクセス数が
あった。(2024年5月2日現在)

腹部超音波検診判定マニュアルHP掲載画像検討小委員会

担当理事：岡庭信司

委員長：小川真広

委員：川端 聡、小島高子、千葉祐子、西川 徹、森 雅美、渡邊幸信

委員会開催：6回（Web1回、メール審議5回）

・腹部超音波検診判定マニュアル HP 掲載画像

1. 動画の提供

委員より 79 画像の提供があった。

2. 動画形式

広告を伴わない YouTube を活用する。

3. 公開対象

腹部超音波検診判定マニュアルの周知・徹底のためには、動画についても人間ドック学会、超音波医学会に加え、オブザーバーの学会などにリンクを作成していただくことが望ましいため、がん検診学会の会員でなくとも閲覧できるよう一般公開とする。

4. 公開場所

本学会 HP の刊行物のページのガイドラインマニュアルに掲載されている腹部超音波検診判定マニュアルの部位に追加掲載する。

5. スケジュール

2024年 2月19日	動画の提供締切
6月前半	委員による動画の確認終了
7月～8月	マニュアル（PDF）へのリンク設定（大村印刷）
9月	理事会で審査
10月	マニュアル（PDF）動画版公開

6. その他

・定期的に動画の追加、変更を行う。